

絵本読み場面での保育者と幼児との関わりの特徴

Features of the relationship
between kindergarten teacher and young children in picture book reading situations

安東 英里佳*
ANDO Erika

吉川 はる奈**
YOSHIKAWA Haruna

柴田 紗希***
SHIBATA Saki

【概要】 絵本を読む機会は教育の場面で多くあるが、とりわけ保育の場では、日常的に保育者による読み聞かせが行われ、環境として子どもが自由に見ることができる絵本コーナーを設置する園も多い。本論では、保育者の絵本の読み方の特徴を可視化することを試み、絵本を通して広がる関わりの可能性について考察した。子どもの関心、特性に合わせて絵本の語りを大人が調整していたこと、同じ絵本を読むことを通してイメージが共有されることで、遊びや生活など、絵本読み場面に留まらず、その後の日常場面における多様な関わりへと発展することが示唆された。

【キーワード】 絵本、読み聞かせ、関わり、保育、観察調査

1. はじめに

絵本は多くの保育・幼児教育施設での日常場面で、また小・中学校の授業等でも活用される児童文化財である。絵本は乳幼児だけが親しむものではなく、小・中学生、大人も含めすべての世代で楽しむことができる価値ある素材である。

保育における絵本の読み聞かせについては、2017年改訂（定）の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領の「言葉」の領域の中で示されている。子どもが絵本に親しむことによって、「先生や友達と心を通わせる」「想像する楽しさを味わう」「豊かなイメージをもつ」「言葉に対する感覚を養う」ことが目指されている。イメージを広げ、想像する楽しさを味わい、絵本の世界を楽しむことは、個々だけで楽しむのではなく、他者と関わりながら、親しむことができる双方向の展開可能性があり、広がりをもった素材である。大人と子どもがともに絵本を通して関わりあう姿を観察していると、保育者がその関わりを変化させながら子どもの想像を広げる場面をみることができる。

園での読み聞かせの実態として、「活動前の導入」や、「活動の切り替え」として行われている他、「降園前」に行われることが多いことが示されている（長瀬ら, 2003）。「降園前」の読み聞かせは、保育者の裁量に任された、比較的自由度の高い選書によって行われている（並木, 2014）。

熟練した保育者による5歳児クラスでの読み聞かせ場面を対象とした先行研究では、保育者の絵本の読み聞かせスタイルとして、「コメント型」「対話型」「要約

型」がみられ、保育者の「ねらい」が実際の読み聞かせのあり方と関連することが明らかとなっている（横山, 2008）子どもの反応を見ながら、保育者が絵本の語りを生み出し、常に新たな読みあいの場が生み出されている過程を丁寧に観察することで、聞き手である子どもの主体的な参加をみることができる。

本論では、絵本読み場面における保育者と幼児の関わりについて実態を明らかにするため、日常的な絵本読み場面の録画データをもとに、観察記録と保育者へのインタビューを合わせ特徴を可視化する。

2. 対象と方法

2-1 調査対象

首都圏の公立幼稚園の園児80名と保育者3名
3歳児クラス29名、4歳児クラス26名、5歳児クラス24名（男児：34名、女児：46名）

2-2 調査期間

2015年10月～2015年12月

2-3 調査方法

(1) 観察調査（2015年10月～12月）

日常の保育場면을観察し、絵本の読み聞かせ場面のビデオ録画を行った。（週1回）

(2) 保育者へのインタビュー調査（2015年11月）

絵本の選定や読み聞かせの際の保育者の意識について質問した。

2-4 調査内容

子どもと絵本の関わりについて、日常の保育場面でみられる子どもの行動や発言、子ども同士の関わり、保育の環境構成等を観察し、随時メモをとり、写真とし

* 文京学院大学人間学部児童発達学科

** 埼玉大学教育学部生活創造講座

*** さいたま市立下落合小学校

て記録した。

保育者の絵本読み場面の観察・ビデオ録画による調査では、観察記録と録画データをもとに、保育者の発言、子どもの行動や発言、保育者と子どものやり取り等について分析を行った。いずれも園の許可を得て行った。

3. 結果

3-1 クラスの「子どもと絵本」の様子

(1) 3歳児クラスにおける子どもの絵本への関わり

3歳児クラスが絵本に触れる場面は、朝と帰りの保育者による読み聞かせの場面と、帰りの支度が早く終わった子が絵本を読みながら待つ場面であった。帰りの支度ができた子から本棚の前に行き、自由に絵本を選んでいた。絵本を床に置いて読む子が多かった。

(2) 4歳児クラスにおける子どもの絵本への関わり

4歳児クラスが絵本に触れる場面は、3歳児クラスと同様、朝と帰りの読み聞かせと、帰りの支度が早くできた時であった。4歳児クラスに進級後は早く着替えられるようになり、ほとんどの子どもが降園前の時間に絵本を読む姿が見られた。本棚から絵本を持ってきて、自分の席に座って読んでいた。絵だけをパラパラと見て、次の本を持ってくる子が多く、1冊をじっくりと読む子は少なかった。

(3) 5歳児クラスにおける子どもの絵本への関わり

5歳児クラスが絵本に触れる場面は、3・4歳児クラスと同様、朝と帰りの読み聞かせと、帰りの支度が早くできた時であった。5歳児クラスではさらに、登園後に1冊の乗り物の図鑑を複数人で見る男児の姿が見られた。「これはね、〇〇っていう電車だね」と観察者に教えながら読む子もいた。工作で象を作る時に、象の耳がどうなっているかを図鑑で調べる子もいた（写真1、エピソード1）。

写真1. 図鑑を見ながら象の耳を作る様子(5歳児クラス)



エピソード1「図鑑で調べて象の耳を作る」：登園後の自由遊びの時間、Aちゃんは廃材を用いて象を作る。胴体に見立てた箱に、脚、尻尾、頭、鼻をつけていくと、耳をつけるところで手を止める。「象の耳ってどうだっけ？」つぶやきを聞いた保育者も、「どうだったかな？」と応答し一緒に考える。Aちゃんは、そうだ、と思いついたように絵本の棚に向かうと、動物図鑑を取り出して、床の上での象のページを開き、その場で耳をつける。

保育者が設定した「お弁当を作ろう」という製作活動の前には、お弁当のイメージを膨らませるため、お弁当に関連する絵本を読み聞かせたり、園児の目に入る場所にお弁当に関する絵本を並べて置いたりしていた（写真2、エピソード2）。

写真2. 環境として絵本を取り入れた様子(5歳児クラス)



エピソード2「製作活動“お弁当をつくろう”の前に」：朝のお集りの時間、保育者は子どもたちにお弁当に関連する絵本を読み聞かせ。「おいしそう」「たまごやきすき」「ウインナーぼくも入ってるよ」保育者の読み聞かせを通して、子どもたちはそれぞれのお弁当のイメージを膨らませていく。絵本を読み終えると、画用紙や綿を用いてお弁当を作る製作活動を行う。保育室には、お弁当に関連する絵本を集めた特設のコーナーが用意されている。Bくんは、製作の途中でお弁当の絵本を見に来る。Cちゃん、Dちゃんは、同じ絵本を眺めながら、「これ、作ってみようかな」「折り紙丸めたらできるかな？」と、おしゃべりをしながらアイデアを膨らませている。

3-2 保育者の絵本の読み方の特徴

(1) 絵本の本文を多様に変化させて読む

保育者による絵本の読み聞かせ場面のビデオ分析から、読み聞かせで使用された絵本の文と保育者が実際に読み聞かせた文が異なっていたことがわかった（図1）。

絵本に書かれている文と、保育者が読んだ文を全て

絵本読み場面での保育者と幼児との関わりの特徴

頁	絵本の地の文	保育者が読んだ文
8	ケーブルカーの おかげで いもほりのうえんに いちばんのりです。 あとから あとから、いろんな どうぶつたちが、 <u>いもほりたいかいに あつまってきます。</u> 「いちばん おおきな おいもを ほって、 いっとうしょうは いただきます。」	ケーブルカーの おかげで いもほりのうえんに いちばんのりです。 あとから あとから、いろんな どうぶつたちが、 ⑤ <u>やってきます。</u> 簡略 「いちばん おおきな おいもを ほって、 いっとうしょうは いただきます。」
9	「おいも おいも、おおきな おいも。 どこに かくれているのかな？」	「おいも おいも、おおきな おいも。 どこに かくれているのかな？」
11	はっぱを どけて、つるを たぐって、 <u>ねもとの まわりを どんどん ほって、</u> <u>それから みんなで ちからを あわせて</u> <u>ひっばります。</u>	はっぱを どけて、つるを たぐって、 ⑥ <u>ねもとの まわりを ほっていくとね</u> 親しみ ⑦ <u>ほら!</u> 注目 ⑧ <u>みんなで ちからを あわせてひっばります。</u>
12	「おどろいた、おどろいた。 <u>こんなに でっかい</u> <u>おいもを みるのは はじめてだ。</u> おとうさんも びっくりの、 <u>おおきな おいもが</u> できました。	⑨ <u>うんとこしょ どっこいしょ</u> 親しみ 「おどろいた、おどろいた。⑩ <u>こんなに でっかい。</u> ⑪ <u>こんなの みるのは はじめてだ。</u> 簡略 おとうさんも びっくりの、⑫ <u>おいもが</u> できました。

図 1. 絵本の本文と保育者が実際に読んだ文の比較 3 歳児クラスの例

「ねずみのいもほり」 山下 明生 作 / いわむら かずお 絵 ひさかたチャイルド

書き出しさらに分析を行ったところ、保育者は、①簡略、②付加、③親しみ、④ボリューム、⑤効果音、⑥説明、⑦注目、⑧強調、⑨動作の 9 通りの読み方の工夫をしていたことが明らかとなった (表 1)。

①簡略	文を短く言い換える
②付加	言葉や文を付け足す
③親しみ	「〇〇だね」と呼びかける
④ボリューム	発声の音量を工夫する
⑤効果音	状況や心情を言葉や音で表現する
⑥説明	難しい言葉をわかるように説明する
⑦注目	注目を促す言葉を掛ける
⑧強調	言葉を繰り返したり伸ばしたりして目立たせる
⑨動作	実際に動いてみることで言葉を補う

表 1. 保育者による絵本の読み聞かせ場面の読み方の工夫

なお 4 歳児クラスではタイミングや間の取り方の工夫以外はみられなかったため、3 歳児クラスと 5 歳児クラスの読み方の工夫の出現数を比較した (表 2)。4 歳児クラスの保育者を含め、それぞれの保育者の絵本読みの意図についてはインタビューで明らかにしていく。

3 歳児クラスでは、文を短くする「簡略」や言葉を

クラス・絵本 読み方の工夫	3 歳児クラス		5 歳児クラス		
	ねずみの いもほり	そらまめくんの ベッド	とんぼの あかねちゃん	まつぼっくり	そらまめくんの ベッド
① 簡略	4	4	1	0	1
② 付加	2	11	0	0	1
③ 親しみ	4	1	0	0	1
④ ボリューム	0	3	0	0	0
⑤ 効果音	0	1	2	1	0
⑥ 説明	0	0	1	3	0
⑦ 注目	1	0	0	0	0
⑧ 強調	0	0	1	2	0
⑨ 動作	0	0	0	0	2

表 2. 読んだ絵本と読み方の工夫の出現数
3 歳児クラスと 5 歳児クラスの比較

つけたす「付加」、「〇〇だね」、と子どもに呼びかける「親しみ」が多く出現した。「付加」については、同じ絵本を読んだ場合でも 3 歳児クラスで多く出現していた。

5 歳児クラスでは「説明」が出現し、特に絵本「まつぼっくり」読み聞かせ場面では、「説明」によって 1 ページにかかる時間が多くなっていた。

絵本読み場面での保育者と幼児との関わりの特徴

(2) 子どもと関わりながら読む

本文以外の保育者の発言と、子どもの反応について分析を行った。1ページ中の子どもの反応、保育者の発言、1ページあたりにかけた時間(秒)を記録し、保育者の発言と子どもの反応が関連している部分を矢印で表した。重括弧は地の文を表している(図2)。

保育者と子どもの関わりは、①直接的な言葉でのやりとり、②指さしと注視、③動作や言葉の模倣、④うなずき・首振り・挙手、であった(表3)。絵本に対して思わず子どもから声が出た場面や、保育者が子ども同士の反応に対して微笑み返す場面などは、⑤その他、とした。

頁	子ども	保育者	秒	関わりの様子
10	「種、見たことない。」 ①直接的な言葉でのやりとり	(種を指さす) 「種、もう落ちちゃったかねー。」 (実際のまつぼっくりを見る)	35	a: 子どもの発言に対して保育者が言葉で応答する (①直接的な言葉でのやりとり)
11	「すごいっばい。」 「えー、種!？」	「わー。」 『たくさんの種』 (指さし) 「すごいねー」(小声) 「知ってたー？」	26	b: 保育者が絵本を指さし子どもが絵本に注目する (②指さしと注視) c: 子どもの発言に対して保育者が言葉で応答する (①直接的な言葉でのやりとり)
12	(本文) 「閉じちゃうの？」 「閉じたり開くの。」 (手でジェスチャー) (動きと一緒に言葉を繰り返す)	『雨の日。開いていたまつぼっくりは』 (実物を並べる) 「そう、そして・・・」『ゆっくり開き始める』 (実物を並べる) (手でジェスチャー) (うなずく) ④うなずき ③動作や言葉の模倣	38	d: 子どもの発言に対して保育者が言葉で応答する (①直接的な言葉でのやりとり) e: 子どもの発言に対して保育者がうなずいて応答する (④うなずき) 保育者の動きを子どもが模倣する (③動作や言葉の模倣)

図2. 読み聞かせ中にみられた保育者と子どもの関わり 5歳児クラスの例
「まつぼっくり」 菅原 久夫 文 / 大島 加奈子 絵 福音館書店

表3. 保育者の発言と子どもの反応

①	直接的な言葉でのやりとり
②	指さしと注視
③	動作や言葉の模倣
④	うなずき、首振り、挙手(言葉を伴わない関わり)
⑤	その他

「①直接的な言葉でのやりとり」は、主に保育者が絵本の内容に関連する質問を投げかけ、子どもたちがそれに答える場面である。3歳児クラスでは導入場面に多くみられた。5歳児クラスでは絵本の途中にもこうした「①直接的な言葉でのやりとり」がみられた。5歳児クラスでは、子どもが声を出さずにうなずきや首振りなどで反応する場面があった。保育者が読み聞かせ1ページあたりにかけた時間の平均は、3歳児クラスで約29秒、4歳児クラスで約27秒、5歳児クラスで約31秒であった。

4歳児クラスでは、ストーリーを止めて子どもと関わる場面はみられなかった。4歳児クラスの読み聞かせの保育者の意図について、保育者へのインタビューから捉えていく。

3-3 読み聞かせにおける保育者の意識

(1) 絵本の選び方

- ・3歳児クラスの保育者：読み聞かせる子どもの実態に合わせて、「保育者自身の好きなもの」「季節を感じることができるもの」「子どもたちに伝えたいことが描いてあるもの」「製作をする際にヒントとなるもの」などをポイントとして選定していた。

- ・4歳児クラスの保育者：「ストーリーがわかりやすいもの」「人の気持ちや季節など、子どもたちに気付いてほしいことが描かれているもの」「絵が美しいもの」「昔ながらの名作といわれるもの」などをポイントとして選定していた。

- ・5歳児クラスの保育者：「年齢に合っているか」「季節に合っているか」などをポイントとして選定していた。行事がある時には、行事の由来にちなんだものを選んだり、シリーズ物の絵本は、数日かけて紹介し、子どもたちが興味をもてるようにしたりする工夫をしていた。

(2) 読み聞かせで意識していること

- ・3歳児クラスの保育者：導入の時から子どもたち全員の顔を見て、手遊び等をしながら、子どもたち全員が絵本の見える場所に座っているかを確認し、「これから読み聞かせをする」ということが子どもにわかるようにしている。絵本を読んでいる時は、声の大きさや間、スピードを意識している。

- ・4歳児クラスの保育者：読み手と聞き手の心の通いを大切にしている。声色はなるべく変えずに、テンポと間のとり方によって登場人物を区別している。絵本の中で、子どもたちがおもしろいと感じるところや見入っているところは、一人ひとり異なるだろうという理由から、途中で止めたり、話したりすることはしないようにしている。

- ・5歳児クラスの保育者：年齢に合ったスピードで、あまり大きな表現で読まないように意識している。子どもの表情や反応を見ながら読み進めている。ページをめくる際は、余韻をもたせてゆっくりめくる工夫をしている。読み終わった時に、裏表紙を見せた後に表紙も見せるようにしている。

4. 考察とまとめ

4-1 保育者による子どもの発達段階に合わせた読み方の工夫

幼児への絵本の読み聞かせ場面では、保育者の読み方の工夫として、長い文を短くし言い換える「簡略」、絵本にはない言葉や文を付け足す「付加」、「○○だね」と園児に話しかける「親しみ」、発声の「ボリュームの工夫」、「効果音」の使用、「説明」する、「注目」をうながす、「強調」する、「動作」を補う、の9つがみられた。

3歳児クラスでは、ほぼすべてのページで読み方の工夫がみられ、特に保育者による「簡略」「付加」「親しみ」が多く見られた。これらは5歳児クラスにはあまりみられなかった。一方、5歳児クラスに特徴的であった「説明」は、1ページに多くの時間を費やし行っていた。インタビュー結果と合わせると、保育者が「絵本のおもしろさやイメージを共有する」ことや、「絵本の内容の理解を促す」ことをねらいとし、それぞれの子どもの発達段階に合わせて意図的に読み方を変えていることが示唆された。

4-2 絵本を介してみられる多様な関わり

読み聞かせ中にみられた保育者と子どもとの関わりは、絵本の導入場面や、内容に関連する質問の投げかけ場面で多くみられた「直接的な言葉でのやりとり」、絵本の「指差しと注視」、いもを引っ張る場面や手を使ってまっぼっくりの動きを表現する場面でみられた「動作や言葉の模倣」、子どもの反応に対して、または保育者の反応に対して、言葉を伴わない「うなずき、首振り、挙手」、その他として、子どもの反応に対する保育者の「微笑み」など多様な形が観察された。

絵本読みでの関わりのおおむねは、保育者が自身の言葉を通して、絵本のおもしろさやより詳しい内容を伝えることで、子どもたちの中に絵本のイメージの共有を図る意図があることが示唆された。一方で、「うなずき」や「微笑み」など、絵本の内容に関わらず、子どもの反応を肯定的に受け止めようとする関わりもみられた。

4歳児クラスの絵本読み場面では、保育者と子どもとの関わりだけでなく、絵本を通じた子ども同士の関わりがあることが明らかとなった。読み聞かせを聞きながら子ども同士が顔を見合わせ笑い合うなど、絵本を媒介することによって多様な形での仲間との関わりが生まれる可能性も示唆された。

5歳児クラスにおける子どもの絵本との関わりを観察では、1冊の絵本を複数の子どもが一緒に読む場面がみられた。同じものに興味をもつ仲間が集まり、絵本を媒介することで言葉でのやりとり、指さしと注視、うなずきといった多様な関わりが生まれていた。絵本読み場面に留まらず、日常の様々な場面で絵本と主体的に関わろうとする子どもの姿や、集団ならではの、絵本を媒介した活動の広がりの可能性も伺えた。

4-3 絵本を通した双方向的な関わりとその可能性

こども園教育保育要領」2017年

絵本を読むという行為は、保育者から子どもに伝え、子どもが受け取るという一方向的なものではない。保育者へのインタビューから、日々の保育の中で子どもの興味や関心を捉え、それに繋がる絵本を選書したり、子どもたちに今伝えたい内容や、保育者自身の心が動いた絵本を共有したいという願いをもち選書したりしていたことが明らかとなった。絵本読みの際には、子どもの反応を受けて、保育者自身も、発する言葉や表情、動作を多様に変化させるなど、子どもに合わせて読み語りを調整していた。

絵本読み場面においてみられる関わりは、保育者から幼児へ、幼児から保育者へ、幼児同士といった、場を共有した他者との双方向的な関わりであることが示唆された。

保育者による絵本読みは、単に絵本に書いてある文字やストーリーを伝える、ということだけではなく、絵本という素材を介して、思いを共有したり、他者の思いに気づいたり、感じたことを伝えたり、思いを受け止めてもらったりといった、多様な関わりを経験する場となりうることも示唆された。このような絵本という教材を通して生まれる双方向的な関わりについて、幼児期以降の教育の場においても生かされる可能性に期待したい。

5. 引用・参考文献

- ・長瀬 荘一・幸本由紀子・宮本佳郎「幼稚園における絵本の語り読みの実態」神戸女子短期大学論叢 48、123-137, (2003)
- ・並木真理子「幼稚園入園年齢4歳児への読み聞かせにおける絵本の選書理由および保育者の読み聞かせスタイルの検討—「降園前」の読み聞かせに着目して—」チャイルド・サイエンス：幼児学 10, 66-70(2014)
- ・横山真貴子・水野千具沙「保育における集団に対する絵本の読み聞かせの意義—5歳児クラスの読み聞かせ場面の観察から—」奈良教育大学教育学部教育実践総合センター研究紀要 17 巻, 3-31(2008)
- ・會澤のはら・片山美香・高橋敏之「幼児を対象とした集団における絵本の読み聞かせに関する研究動向」岡山大学教師教育開発センター紀要, 第9号, 215-228(2019)
- ・作:山下明生/絵:いわむらかずお「ねずみのいもほり」ひさかたチャイルド, 1984年
- ・文:菅原久夫/絵:大島加奈子「まつぼっくり」福音館書店, 2015年
- ・作/絵:なかやみわ「そらまめくんのベッド」福音館書店, 1999年
- ・作:高家博成・仲川道子「とんぼのあかねちゃん」童心社, 2002年
- ・文部科学省「幼稚園教育要領」2017年
- ・厚生労働省「保育所保育指針」2017年
- ・内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定